

SERIES 明日のスポーツをめざして 2

岩手県スキー連盟

理事長 三浦明夫

当連盟は、国民体育大会の天皇杯に向けて、得点獲得を目標に選手強化を行っております。

スキーの国体種目には、アルペン(ジャイアントスラローム)、ジャンプ・コンバインド、クロスカントリーの三競技があります。

アルペンは、市民スポーツに近い競技ですので、指導者も多く選手層もあり小学生、中学生、高校生、大学生と成人選手を確保できている現状です。

ジャンプ・コンバインドは、年少の時期から競技に取り組まなければ出来ない面や練習するジャンプ台が身近にあまり無いことから、限られた地域の人達に限定される競技環境にあり、競技人口が減少傾向にあります。しかしながら先輩諸兄が築いた柱が生きており、少ない選手の中からも小林潤志郎選手が代表するように、優秀な選手が育ってきております。



クロスカントリーは、地域的には八幡平市、花巻市、西和賀町、雫石町、一戸町などにスポーツ少年団等があります。多くの小学生を中心に競技を行っていますが、中学、高校に進学するにしたがって、競技をやめる傾向があります。それに伴い高校では、一つの高校でリレーを組めない状況



です。特に女子選手に至っては、岩手県としてリレーを組めないのが現状です。多くいる小学生選手が、中学、高校と続けられる環境を考えていきたいと思えます。

国体のスキー競技の今後の課題としましては、有力選手の県外就職に伴う県外流出と女子選手の育成と選手層の拡大です。

今年行われたバンクーバーオリンピックで活躍した選手を長野県内の企業が、苦しいながらも選手を抱えて応援している活躍している様子がマスコミで紹介されていました。経済状況の厳しい折ですが、県内の企業にも選手の採用を期待したいところです。

岩手県は、雪国として練習環境に大変恵まれており、これを活かして楽しく競技を継続していきける環境作りを考えていきたいと思っております。

以上多くの課題がありますが、一つ一つ粘り強く取り組み、岩手県からの強化費や補助事業を活用し、普及事業や寄付金募集を行い選手強化を進め、国体の得点を一点でも多く獲得できるよう取り組んでいきたいと思えます。皆様の更なる支援をお願いいたします。